

2011年11月28日

報告者：研究主監 中村由行

海外出張報告

出張者：中村由行、富田孝史、加藤絵万

会議名：「第29回中日工程技術研究会」

主催者：台湾科学技術協会及び中国工程師学会（本部：台湾・台北）

期 間：平成23年11月20日（日）～11月25日（金）（中村は24日に帰国）

開催地：台湾・台北

「中国工程師学会」は、中華民国が建国された1911年に南京で設立。1949年に中華民国政府が台湾に移転した際にも、その名称を変えずに、活動を継続している。現在は、台湾内政部所管の組織として、電気部会、機械部会、土木部会など12の専門部会を統括し、約2万人の会員を擁する科学技術振興のための学術団体として活動。

「中国工程師学会日本支部」は、1953年に日本に滞在している台湾出身の技術者によって設立され、2006年12月に「台湾科学技術協会」に改名され、現在は在日の専門家や学者、および博士後期課程の院生を主体とした約100名の会員が所属している。

「中日工程技術研究会（日本での通称は台日工程技術研究会）」は、中国工程師学会と台湾科学技術協会との共催で、ほぼ毎年台湾で開催されている。研究会の目的は、台湾の産業技術の向上へ寄与するため、日本の専門家からの指導や議論を通じて、日本の先進技術と研究を台湾の各関連部署へと普及することであり、それによって、両国における先進技術の交流と協力を増進していくことである。

1980年に第1回が開催されて以来、今年で29回目を迎える事になった。過去28回において参加した講師の数は延べ1,070名を超えるに至っている。

今回は、港湾関連のほか、電気、機械、建築、原子力工学など幅広い工学の19部門に分かれ、それぞれ複数の日本側研究者が参加して講演や意見交換などを行った。港湾関連では「港埠工程組」というグループ名で港空研から中村・富田・加藤の3名が、さらに新日鉄豊島径氏の計4名が参加した。他に、副団長として宮本卓次郎氏が参加し東日本大震災について基調講演を行った。

詳細日程：

11月20日（日）：移動（羽田→台北）、夜全体レセプション

11月21日（月）：

午前 説明会、総統府訪問、副総統謁見

午後 開会式

夕刻 「港埠工程組」は基隆港訪問

11月22日（火）：各分組の研究討論会

場所：台北港事務所

講演内容：

富田孝史「東日本大震災における津波災害－構造物と津波など」

豊島 径「廃棄物埋立地等に係る事例の紹介－鋼製壁体構造を用いた事例」

加藤絵万「港湾施設のライフサイクルマネジメント」

中村由行「日本における港湾を中心とした沿岸域環境修復と地球温暖化対策」

講演はそれぞれ日本語（中国語の逐次通訳付き）で約 90 分（質疑応答含む）

11 月 23 日（水）：各分組での研究討論会

場所：台北港事務所

台湾（台北港）の紹介と技術課題の説明、質疑応答

大水深での港湾施設建設の課題（吸出し対策など）

砂地盤地での廃棄物埋立護岸建設

11 月 24 日（木）：

台北港見学等

晩餐会

11 月 25 日（金）：帰国



總統府を前に



開会式風景



歴史ある基隆港のガントリークレーン



暮れなずむ基隆港



講演会風景（富田上席）



同（新日鐵豊島氏）



同（加藤主任研）



同（中村）



出席者からの質問



コンテナターミナル進展が進む台北港



台北港対岸の淡水（淡水河の河口付近）
年開港)



イギリス進出の拠点となった旧淡水港（1862